

【この授業の指導案】

○学習活動・子供の思考の流れ	指導上の留意事項
○「誠実な行動」とはどのようなイメージがあるのかワークシートに書き、発表する。 ・他人との約束を守る。 ・人のことを考える。 ○教材「手品師」を一読し、内容を確認する。 ・貧しい手品師 ・少年との約束 ・自分の夢を諦め、少年との約束を守った手品師は誠実だ。 ○「これ以外の結末はどのような結末が考えられますか」と問い、多様な結末について考える。 ・少年との約束ではなく、劇場への出演を選ぶ。 ・劇場の出演を優先し、後に少年を探す。 ○出てきた結末に対して、「自分が選択するのなら、どの選択ならばその後、気持ちよく生きていけるのか」と問い、順位付けをし、話し合う。 ・他者との約束を優先することが誠実 ・自分の夢はそんな簡単に諦められない。 ・少年には後で謝れば許してもらえる。 ○「自分の選択したのと違う友達の選択は、誠実な行動ではないのですか」と問い、話し合う。 ・自分に対して誠実だ。 ・他者に対して誠実だ。 ・それぞれの考え方によって、誠実な行動は変わる。 ○「誠実な行動」とは何かを考え、それぞれがワークシートにまとめる。	・普段聞き慣れない「誠実」という言葉を提示することで、「誠実」の意味を辞書で確認し、日常では、どのような行動が誠実な行動なのか、子供が考えられるようにする。 ・教材は教師が一読する。 ・内容の確認は板書しながら、簡単に行う程度にする。その際、数名の子供に将来の夢を聞き、自分ならどうするかを問うことで、日常の小さな選択ではなく、手品師にとって大きな選択であることを確認する。 ・発問をした後、ペアトークをし、できるだけ多様な考えが出るようにする。子供から出ない場合は教師から提示する。 ・最初に個人で考え、ペアか4人グループで合意形成に向かうように話し合うことで、それぞれの選択に納得できる理由があることに気づき、それによって一つにまとめることが難しいことを感じられるようにする。 ・ここまでの話合いの主張を比較しやすいように、自分を大切にしている考えと相手を大切にしている考えに整理しながら、板書する。そうすることで、それぞれが自分ない視点について考えられるようにする。そこから、誠実な行動にはいろいろな形があり、それぞれの理由や考えがあることに気付けるようにする。 ・授業の最初に書いたものと比較し、それぞれが本時のねらいに迫っているかを評価できるようにする。